

新型コロナウイルス対策が気になる保護者の方へ

遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診

新型コロナウイルス感染症の影響で、お子さんの予防接種や乳幼児健診が遅れていませんか。

予防接種を遅らせると、特に赤ちゃんは免疫がつかのが遅れ、重い感染症になるリスクが高まります。お子さんの健やかな成長のために、接種期間内に予防接種を受けましょう。詳しくは、大垣市保健センター（☎75-2322）へ。

なぜ、予防接種や乳幼児健診を遅らせない方が良いの？

- 予防接種のタイミングは、感染症にかかりやすい年齢などをもとに決められています。特に、生後2か月から予防接種を受け始めることは、お母さんからもらった免疫が減っていくときに、赤ちゃんがかかりやすい感染症（百日せき、細菌性髄膜炎など）から赤ちゃんを守るために、とても大切です
- 乳幼児健診は、子どもの健康状態を定期的に確認し、相談する大切な機会です。適切な時期にきちんと乳幼児健診を受け、育児で分からないことがあれば、遠慮せずに医師、保健師、助産師などに相談しましょう



コロナの流行で予防接種を受けられませんでした。どうすればいい？

- 予防接種には、それぞれ適した年齢がありますので、できるだけ早く受けましょう
- 子どもの予防接種は、決して「不要不急」ではありません。まだ接種期間内の人は、お早めに接種をお済ませください



？ 予防接種や乳幼児健診に赤ちゃんを連れて行っても大丈夫？

- 医療機関や健診会場では接種を行う時間や場所に配慮し、換気や消毒を行うなど、新型コロナウイルスの感染防止対策に努めています
- 予防接種はできるだけ事前に予約しましょう。一般の受診患者と別の時間や場所で受けられる医療機関もあります
- 受診の前には、体温を測定するなど、体調に問題がないことを確認してください。家に帰ったら、赤ちゃん、保護者とも、手洗いなどの感染対策をしっかりとしましょう。また、予防接種を受けた日もお風呂に入れます
※体調が悪いときは、予防接種や乳幼児健診に行くことはやめましょう。元気になってから、改めて予定を立ててください



もっと詳しく知りたい人へ

予防接種スケジュール

各機関が推奨する予防接種スケジュールを掲載



国立感染症研究所HP



日本小児科学会HP

ビデオメッセージ集

～妊婦のみなさま、小さなお子さまがいらっしやるみなさまへ～

各分野の専門家からのメッセージを掲載



厚生労働省HP

医療機関受診時の注意点など

新型コロナウイルス感染症

◎新型コロナウイルス感染症の特徴

- ◆ 新型コロナウイルスに感染しても、約8割は軽い症状で回復する例が多いですが、高齢者や基礎疾患をお持ちの人は、重症化するリスクが高いことが報告されています
- ◆ 感染経路として、飛沫感染のほか、接触感染に注意が必要です
- ◆ 潜伏期は1～14日間で、発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感などがみられ、嗅覚障害や味覚障害などを訴える人が多いです

◎帰国者・接触者相談センターなどに相談する目安

- ◆ 少なくとも以下のいずれかに該当する場合には、すぐにご相談ください（これらに該当しない場合の相談も可能です）

- ① 息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱など、いずれかの症状がある場合
- ② 重症化しやすい人で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合
※重症化しやすい人…高齢者、糖尿病、心不全、呼吸器疾患（COPD）などの基礎疾患がある人や透析を受けている人、免疫抑制剤や抗がん剤などを用いている人
- ③ 上記以外の人で、発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続く場合
※症状が4日以上続く場合は必ずご相談ください。症状には個人差がありますので、強い症状と思う場合にはすぐに相談しましょう。解熱剤などを飲み続けなければならない人も同様です



《妊婦の方へ》

- ◆ 妊婦の人については、症状が出たら早めに帰国者・接触者相談センターなどへご相談ください

《お子様をお持ちの方へ》

- ◆ 子どもについては、小児科医による診察が望ましく、帰国者・接触者相談センターやかかりつけ小児医療機関に電話などでご相談ください



帰国者・接触者相談センター（西濃保健所内）
～発熱などの症状が持続している場合の相談窓口～

☎ 0584-73-1111（内線273） 24時間対応

◎医療機関の受診の前に心がけること

- ◆ 発熱などの風邪症状が見られるときは、学校や会社を休み外出を控えてください
- ◆ 発熱などの風邪症状が見られたら、毎日体温を測定して記録しておきましょう
- ◆ 基礎疾患（持病）をお持ちの人で症状に変化がある人や、新型コロナウイルス感染症以外の病気が心配な人は、まずは、かかりつけ医などに電話でご相談ください

◎医療機関にかかる際の注意事項

- ◆ 複数の医療機関を受診することはお控えください
- ◆ 医療機関を受診する際にはマスクを着用するほか、手洗いや咳エチケットの徹底をお願いします

